

編集後記

日本小児循環器学会の皆様、あけましておめでとうございます。

2016年が去り、2017年がやってきました。年末年始は良くも悪くも、振り返りと新たな年への期待を抱く時です。ちょうど1年前、市川委員が編集後記に書かれていたのが2015年の本誌の電子化です。幾年にもわたる論文データをたちどころに参照できる子孫への贈り物として、本誌革新のfirst-stepとなりました。2016年はsecond-stepが展開する年となり、比較的若手著者によるReview〈ホットトピックス〉の新設、News Letterの充実、英文誌の準備、Web雑誌の利点を生かしたCase Challengeの新設など、まさにチャレンジの1年でした。Case Challengeのアクセス数はNo. 1で218件、No. 2で84件と順調な滑り出しに見えます。これら2016年の展開にも、丁寧な御査読を下された学会の先生方、そして国際文献社・学会事務局・雑誌編集室の皆様の本当に献身的なご尽力が光りました。この場をお借りして、心より感謝したいと思います。

2017年は酉年。「とり」は「とりこむ」と言われ、仕事や商売には縁起の良い干支です。酉年生まれの方は、「頭がよく何事も器用にこなすことができ、また好奇心が旺盛で積極的に素早く行動に移すことができます。しかし、努力しなくても才能に恵まれているためにすぐに飽きてしまって、移り気になってしまう傾向があるので、最後まで探求し続けることが運氣向上のカギとなる」そうです。

本誌の2017年は、記念すべき英文誌“Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery”元年となります。和文誌と共に、まずアジアを代表する小児循環器学術誌を目指します。ところで、編集委員会で話題となる数字の一つに、学術集会座長推薦演題数があります。第50回（2014年）学術集会座長推薦による原稿依頼数153件、投稿承諾数44件、実際の投稿数17件、第51回（2015年）学術集会座長推薦依頼数134件、投稿承諾数32件、投稿数2件、第52回（2016年）学術集会座長推薦依頼数171件、投稿承諾数64件、投稿数4件です。依頼数・投稿承諾数にもかかわらず実際の投稿数が非常に少なく、座長の推薦を受けた素晴らしい学会発表の数々も、まだまだそのまま残されてしまっています。酉年の方も、その他の干支の方も、ぜひ最後まで探求し続けて、論文として完成して本誌への投稿をお願いします。英文誌第1巻にチャレンジすることも、大きな記念と足跡になると思います。

2017年为本誌にとって、そして皆様にとりましても、文字通り飛躍の年となりますように。本年も編集委員会一同、明るく楽しく真面目に頑張ります！ 何卒宜しく願い申し上げます。

(山岸敬幸)